

くるはら

2018(平成30)年8月10日

第 55 号

発行 来原地区コミュニティ
づくり連絡協議会

編集 広 報 部



来原に育ち、
故郷を受け継ぐ



お祭りは、地域の力を一つにし、地域の輪によって盛り上がります。体育館の中だけでなく、体育館の外でも、来原地域のJ A 女性部による食事バザー、コ連協女性部と民生委員児童委員の方々による福祉バザー、そして駐車場の案内等々それぞれの役割の中で、時には一人何役もこなし、地域一丸となって盛り上げています。

四十周年を迎えたこともあり、食事バザーでは、地元の食材を使った炊き込みご飯やうどんが用意され、多くの方々にご利用いただきました。



また福祉バザーでは、ご家庭にある品物を提供していただき販売します。今回の売上金は、四万四千六百円でした。この売上金を基に、春と秋の年二回、手造りのお弁当を七十五歳以上の一人暮らし、八十歳以上の二人暮らしの方に届けさせていただきます。数年前から小学校の協力で、子供たちの手描きの掛紙とお手紙で一段と心温まる品になっています。



第四十回さんばい祭り

上野 一彦

五月二十七日、第四十回となる「来原さんばい祭り」が盛大に開催されました。今年は、くるはら保育園の園児も参加し、かわいい演技を披露していただきました。体育館では、小学生による歌やバイ流し、中学生の模擬田植え、地元の芸能発表、来女木・原田の両子ども神楽同好会による神楽に加え、美土里町から紅さんにも参加いただき、盛り上げていただきました。

国の重要無形民俗文化財「原田はやし田」の公演も行われ、三頭の飾り牛と保存会会員など約五十人による田園絵巻は、多くの来場者を魅了しました。この地に残る豊かな文化・伝統を、これからも受け継いでいきたいものです。コ連協では、来原さんばい祭り四十周年記念誌の発行に向け、編集作業に取り組んでいます。

皆様からのお話や資料の提供をいただき完成目指して頑張っておりますので楽しみにお待ちください。



昭和三十五年 原田はやし田



昭和三十六年 広島県文化財臨地研究会



昭和三十五年 郷土芸能発表会

祭りのあとは みんなで花植え

さんばい祭りの時に神事が行われ、牛が繋がれていた場所には、祭りが過ぎるとマリーゴールドなどの花の苗が植えられます。今年も小学校の児童の皆さんと職員の皆さん、そして民生委員児童委員の皆さん、コ連協の役員皆さんが一緒になって、花の苗を植えました。

暑い日差しの中の作業でしたが、大きく育ち、綺麗に咲きそろう、道ゆく人の心を和ませてくれることでしょう。



原田駐在所より

平素より警察業務へのご理解、ご協力いただきありがとうございます。
 今年の四月から原田駐在所で勤務している丸野健まるの けんといいます。
 現在は、妻も帯同で赴任しており、二人で生活しております。
 これまでは、広島市内の警察署で勤務しており、駐在所勤務は初めてとなります。
 赴任した当初は、初めてのことが多く不安な気持ちもありましたが、地域住民の方々にも助けられ、駐在所勤務にも大分慣れてきました。
 来原地区は、犯罪の発生が極めて

少なく、また、交通事故も少ないのですが、皆様により安全・安心に暮らせるよう、パトロールや巡回連絡等の活動を行ってまいりますので、よろしくお祈りします。

山本さんご一家から



在所業務へのご理解とご協力をいただきありがとうございます。
 四月からは、吉田の安芸高田警察署交通指導捜査係で勤務しております。
 本署での勤務となりましたが、引き続き原田地区の日南側に住居を借り、生活しております。
 今後も地域行事等に参加させていただきますことがありと思っておりますので、家族共々よろしくお祈り致します。

家族共々、いつもお世話になっております。
 本年四月まで原田駐在所で勤務をしておりました山本です。
 二年間と短い間でしたが、在任期間中は駐

消防団活動に感謝!!



7月1日(日)第56回安芸高田市消防団高宮方面隊団長査閲は、高宮町内6分団が参加し、船佐小学校で開催されました。

消防団員の皆さんは、それぞれが仕事を持つ中、いざという時、地域住民の生命と財産を守るため、日頃より技術を高め、チームワークを強めてこられています。団長査閲では、第1分団(原田地域)は小型ポンプ操法の部で準優勝、第2分団(来女木地域)は訓練礼式の部で準優勝と、その成果を存分に発揮してくださいました。

さらに、7月上旬の豪雨災害やそれに続く台風12号における消防団員の皆様の活動には、心よりの感謝を申し上げます。



安芸高田市立来原小学校校長
 高松 昌子

笑顔いっぱい 夢いっぱい 輝け、来原っ子

このたびの豪雨災害において、お亡くなりになられた方々に哀悼の意を表すとともに、被災されました皆様から御見舞いを申し上げます。
 さて、私は、この春、来原小学校長を拝命いたしました高松昌子でございます。初めて高宮の地で勤めさせていただきます。どうぞよろしくお祈りいたします。
 さる七月二十日、一学期を終え、全ての子どもたちが夏休みに入ることができました。これもひとえに、保護者の皆様をはじめ、地域の皆様の温かいご支援、お力添えのおかげでございます。誠にありがとうございます。
 本校は、地域の中の学校として、地域を学び舎とし教育活動を進めております。その中で、子供たちの笑顔があふれ、夢(目標)に向かって努力する来原っ子が育ってきています。それもご家庭の皆様・地域の皆様の絶大なご支援の賜物であると思っております。重ねて感謝いたします。
 学校の主人公は子供たちです。子供たちが尚一層輝くことができるよう本校職員一丸となって取り組んでまいります。これまで同様の支援、ご協力をいただきますよう心よりお願い申し上げます。



~地域の方との交流で 育つ子どもたち~

自然豊かな田園地域、散歩に出かけるとカエル、カメなどの生き物に出会い、色とりどりの雑草の花束を手にとりしめうれしそうに帰ってくる子どもたち。くるはら保育園の子どもたちが“のびのび”“生き生き”としているのは、そうした自然環境の他、地域の方の力が大きく関わっていると実感します。

毎年、トウモロコシの収穫体験に声をかけてくださる方、「花を植える会」で子どもたちと触れ合い、命の大切さを伝えて下さる民生委員児童委員の皆様、そして、年間を通して地域の伝統文化や菜園活動を支えて下さる老人会の皆様との体験が“やってみよう”“おもしろそう”の意欲や生きる力の基になっているように感じます。

地域の皆様のご支援、ご協力をいつもありがとうございます。



西日本豪雨により被災された皆様にお見舞いを申し上げます

避難の心得

自治体から発令される避難情報には危険度の低い順から、「避難準備・高齢者等避難開始」、「避難勧告」、「避難指示(緊急)」があります。「避難準備・高齢者等避難開始」が発令された段階から主要な指定緊急避難場所が開設され始めます。夜暗くなつてからの避難は危険ですので、日没前の明るいうちに避難を完了できるようにしましょう。また、危険を感じる場合などは、自らの判断で早めに避難することも重要です。

七月「大雨特別警報」が出され数十年に一度という豪雨が、西日本に、そして市内各所に大きな爪痕を残しました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害を受けられた皆様に心からお見舞い申し上げます。

来原地区においても、河川・道路等の大雨による崩壊箇所が数カ所出ております。早期の復旧がなされることを祈念いたします。

また、七月六日十五時に市内全域に発令された避難勧告によって避難所が開設されました。七日午前六時の段階での避難所の利用状況は、吉田町五避難所二二五世帯五〇九名、八千代町二避難所二六世帯六十一名、美土里町六避難所九世帯十六名、高宮町五避難所三十二世帯五十七名、甲田町一避難所一六世帯二七名、向原町四避難所二六世帯二五八名でした。

来原地域では、二カ所の避難所が開設され、六日から七日にかけて、プラタナスと来女木公民館にて、五世帯十三人の利用がありました。

町内の避難所を利用された方々からは、「堤の決壊が心配で。」「安全のため近所の方と避難を決めた。」「一人で夜を過ごすのは不安。」「子供が怖がるので。」などの声がありました。

「日本気象協会 トクする!防災」には「避難の心得」として次のように書かれています。

コ連協執行部役員	
会 長	秋國 満
副会長	猪掛 公詩
〃	亀井 聖
〃	藤田 康子
総務部長	岩崎 猛
福祉厚生部長	住田コズエ
体育部長	信藤 清
青少年育成部長	本多 正樹
文化部長	上野 一彦
環境保全部長	中崎 克則
広報部長	山根 温子
事務局	岩見 孝志
〃	高下 正晴
〃	児玉 晃

◆プラタナスの利用方法の変更について

コミュニティセンター「プラタナス」の鍵の置き場所を変更します。

プラタナス入り口のトイレ前にボックスがあり、その中に利用日誌と鍵が置いてあります。管理の都合上、九月よりナンバーキーを掛けますので、利用される方は右表のコ連協執行部役員にお尋ねください。なお、会場の予約は従来どおり入り口正面のカレンダーに記入していただき、利用後は利用日誌に必ずご記入ください。

プラタナスの鍵を管理していただきました平本様には、本当に長い年月にわたり地域のためにご協力をいただきありがとうございます。心より感謝申し上げます。

◆広報くるはら発行について

広報くるはらは、昭和53年9月27日に創刊号が発行され、それ以降、「さんばい祭り」の記事など、地域の歩みを綴りつつ今回が第55号の発行となりました。これまでの発行では、平成5年第12号から概ね年2回の発行をしてまいりましたが、来年より定期発行を年1回8月発行いたします。また、必要があれば臨時の発行も行いますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。



来原地域に2カ所の作業所開設!

「安芸高田市シルバー人材センターより寄稿いただきました」

公益社団法人安芸高田市シルバー人材センターは、自らの能力を活かしながら社会参加をしたいという60歳以上の会員に、企業や家庭、公共団体などから依頼された多様なニーズに応じた就業の機会を提供することにより、高齢者の「居場所」と「出番」をつくり、「生涯現役社会」の実現を果たす役割を担っています。高齢者の社会参加を実現し、「生きがいや生活の充実」を図るとともに、活力ある地域社会を生み出すことを目的としています。

今年2月からは、高宮町原田の住野工業(株)高宮工場より依頼を受け、同社敷地内の作業エリアを利用して、1日5人程度の人数で自動車部品の組付け作業を行っています。

また、5月からは高美園の建屋の一部を借りて、自動車部品のバリ取り作業を開始しました。

高美園では、安芸高田市介護予防事業(げんき教室)を行っており、シルバー人材センターの「生きがいや生活の充実」といった部分がマッチングすることから、高宮地域と美土里地域の「働く場」として、作業所を運営することになりました。

現在は、6名の会員で作業を行っています。

安芸高田市シルバー人材センターでは、原則毎月15日に入会説明会を開催しています。この機会に是非入会していただき、皆さんも一緒に働いてみませんか。

☎42-4411 担当 近村・山永

高美園 コメント

会員からは、「のどかで気持ちが落ち着くため、仕事しやすい。」「作業場も広く、ゆったりのびのびと自分のペースで仕事をしています。」と環境の良い作業所ようです。「昼食時には、それぞれで作った料理をお互いが持ち寄って食べています。」と楽しそうに話していただきました。



住野工業 コメント

仕事中は、「品質を最重点」において作業を行っていますが、休憩時には世間話に花を咲かせながら、楽しい時間を過ごしています。グループで仕事を行っているという共通意識を持ち、意見を出し合いながら、「自分たちの仕事」として、責任感を持って作業しています。



さんぽ祭り



☆「連協等行事予定」

- 9月8日 高宮中学校ナイター運動会
- 9月30日 来原小学校運動会
- 10月6日 くるはら保育園わんぱく運動会
- 10月14日 敬老会
- 10月21日 第36回たかみや大地の祭り
- 11月中旬 福祉弁当高齢者訪問
- 11月下旬 原田神楽団太刀納め・原田宮祭り
- 11月23日 来女木宮祭り

● 編集後記 ●

7月5日からの豪雨による災害でお亡くなりになられた方々のご冥福を心からお祈りいたしますとともに、ご遺族の皆さまに心からお悔やみ申し上げます。また、被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。

まだまだ暑い日が続いておりますが、来原地域の皆様におかれましては、お体に気をつけてお過ごしください。

(H・K)

